



- 体育会名: 関西学院大学体育会陸上競技部
 - 創部年: 1918年(大正7年)
 - 2025年度会員数: ●●人(4年32人、3年42人、2年37人、1年49人)
-
- 同窓倶楽部名: 関西学院大学体育会陸上競技部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体
 - 同窓倶楽部通称: 月見ヶ丘クラブ
 - 設立年:
 - 会員数:
-

1917(大正6)年、中学部の宮本常蔵が「第3回極東選手権」に関学のスポーツ史上初めて出場、18年に高等学部陸上競技部が独立し、運動部に正式加入したのが関学陸上競技部の始まりだった。部員は伊達宗敏、深山武夫、渡辺文吉ら、初代部長は高等商業学部教授小寺敬一だった。

その年、渡辺は高障害で関学初の日本記録を樹立、21年の「第5回極東選手権」では高障害、低障害2種目で銀メダルを獲得した。

過去における個人、リレー(単独、選抜を含む)の主な戦績は、日本記録12度、日本選手権優勝13度、日本インカレ優勝16度。国際大会には、オリンピックに3人(1960年ローマ五輪の蛭名純、64年東京五輪の田中章、浅井浄)、アジア大会に3人(58年東京大会の柳恭博、62年ジャカルタ大会の浅井浄、66年バンコク大会の佐藤泰章)、またユニバーシアード大会に8人(前田巖、浅井浄、三宅克宏、田中章、星加利樹、増田学、寺田恵、荻田大樹)が出場。特に寺田恵は2007年バンコク大会の女子ハーフマラソンで2位となり、国際大会で関学初の女子メダリストとなった。

1991年から実施されたスポーツ選抜入試により、低迷していた陸上競技部は復活を遂げた。99年には関西インカレで33年ぶり7度目の男子1部総合優勝(初優勝は1924年)。それ以降も2008年に優勝、11~13年に3連覇を達成し、関西学生陸上界をリードする強豪校となっている。

個人でも上記のユニバーシアード大会に出場した荻田大樹が2013年モスクワ世界陸上に関学から初出場を果たし、田中僚もアジア陸上に現役として約半世紀ぶりに出場したほか、こ

れまで世界ジュニアに 5 人、アジアジュニアに 6 人が出場している。

15年には多田修平が入学。1年時から関西インカレ男子100m で55年ぶりとなる4連覇を成し遂げた。3年時の17年6月には、日本学生個人選手権(平塚)準決勝で、追い風参考ながら9秒94(追い風4.5m)を出し、国内における日本選手初の9秒台に。決勝でも10秒08(日本歴代7位=当時)で優勝した。同年のロンドン世界陸上では100mで準決勝進出、4×100mリレーでは第1走を務めて見事に銅メダルを獲得した。多田は卒業後も10秒01まで記録を伸ばし21年、多くのライバルを抑えて東京五輪代表となった(10秒22で予選敗退)。

かつては「短距離の関学」と言われたが、2011 年からは出雲選抜大学駅伝、全日本大学対校駅伝に 3 年連続出場を果たし、駅伝でも関西の名門校になりつつある。

また、早大との日本最古の大学対校戦「早関戦」(1920 年開始)は、25 年間の中断の後、1989 年に再開され、現在では日本の学生陸上界をともに牽引するチームとなっている。なお、卒業生は月見ヶ丘クラブに所属している。

【文献】『関西学院大学陸上競技部 70 年史』1988;『関西学院大学陸上競技部 80 周年記念誌』1998;『関西学院大学陸上競技部 90 周年記念誌』2008;『月見ヶ丘会報』創刊号
1949